

長崎市岡町8-20被災協気付
☎ 095-844-0958
長崎被災協・被爆二世の会・長崎

8月9日を迎えて・・・

原爆投下から68年目の8月9日を迎えて、二世の会・長崎では、他の二世の会と合同で献花式を行い、その後、平和祈念式典に参加しました。

<献花式をおこないました>

8月9日10時より原爆落下中心地碑の前で、今回で2回目になる、二世による献花式を行いました。長崎、諫早、福岡の二世の計13名が参加しました。

まずは、皆で黙とうをし、中心碑に献花を行いました。その後、長崎の佐藤会長が挨拶をし、続いて、諫早の森 多久男会長、今年初めて参加された福岡二世の会の南 嘉久会長が、被爆68年目を迎えて、二世としての抱負を述べました。

福岡の南会長は、「被爆二世は、（被爆の実相を伝える）希望の象徴。核なき世界の為に一緒に頑張りたい。」と決意を表しました。

献花式後は平和祈念式典へ参列するため、すぐに平和公園へ移動しました。



<平和祈念式典に参列しました>

平和祈念式典は、今年も安倍総理大臣をはじめ、多くの大臣や議員の方々が参列されました。日本被団協からは、代表委員の方々、そして長崎被災協の理事が今年7月に亡くなられた山口仙二さんの遺影を持って、参列しました。二世の会・長崎からは、役員の堀 洋美さんが献花を担当しました。

昨年は、二世の会が発足したばかりで、式典に参列するのも初めてという会員の方が多く、ただ単に式典に参加しているだけと

いう感じでしたが、1年間いろんな活動をやってきて、「これからの時代、被爆の実相を後世に伝えていくのは、二世の私達なんだ!」という責任感が、式典でのいろいろな方のお話を聞きながら、沸々と湧き上がってきました。

来年は、もっとたくさんの二世の方にも参列してもらい、亡くなられた方々のご冥福を、一緒にお祈りしたいと思えます。



「原爆と人間」写真パネル展、大盛況！

7月27、28日に、被災協2階会議室と1階売店前広場にて、「原爆と人間」写真パネル展と音楽ライブを行いました。

写真パネル展には、両日合せて400名以上の見学者が来場しました。

音楽ライブは、二世の会・長崎副会長岡本さんの「はむingはーと」や、二世の会・長崎会員の川久保さんをメインとして、総勢10組のバンドに演奏を披露してもらい、写真パネル展、音楽ライブとも大成功でした。



写真パネルの展示以外にも、山口仙二氏のコーナーや8月8日の「平和の灯」での、キャンドルの絵付けを見学者に行ってもらったり、被災協が所蔵する被爆の写真集や、絵本などを展示しましたが、見学者の方には、それらを読み入る方、子供に読み聞かせる方もいて、大変好評でした。

次ページに、見学者の方に記述して頂いたアンケートの一部を紹介します。

各役員も今回の企画には、大きな手応えを感じましたので、その感想を掲載します。

- 今回は、音楽の力でも、多くの方々に平和のメッセージが届けることができたと感じました。今後も、様々な活動を通して、原爆や核兵器の恐ろしさや、平和へのメッセージを届けられればと思います。（赤水ますみ）
- 前回まで2回実施した中では、アンケートの要望の中でも、定期開催を望む声が多かったように思います！特に、若年層への浸透と今後の活動への賛同的コミュニケーションを、その場でできればと希望的に思っています！
音楽ライブに関しても、いろいろな業界から参加者を募って、巾を広げることと、音楽での懇親を深めて、二世の会の活動巾を広げることが、コンセプトとしては、第一にありますので、機に依じて継続したいと思います！（岡本宏幸）
- 熱心に見入る親子連れ、若い男女、ともだち同志、高齢者など、年齢もさまざまでした。若い、香港の人だったか、「米国が原爆を落としたのですか？」と聞かれて、驚きました。確かに原爆は68年も昔のことなのだと思います。
フィリピンの高校の先生が「生徒たちに伝えたい」と言われ、熱心に写真を撮られていました。この原爆展がフィリピンの高校で取り上げられると思うと嬉しくなりました。
見に来てくれた人々がいろんなところで原爆のことを話してくれると良いですね。
バンドもすばらしく、力が合わさって、私達も元気をもらえた写真展でした。
ぜひ続けていきたいと思います。（柿田富美枝）
- 今回の写真パネル展では、原爆の事をほとんど知らないたくさんの子供たちと、海外の方に見て頂けて良かったと思います。（佐藤直子）
- 今回は時期、場所、多くのミュージシャンの方々の歌のライブ、携わった会員のチームワーク全てが最高の力を発揮し、大成功の写真パネル展でした。私達、被爆二世は、原爆の恐ろしさ、被爆地の悲惨な事実を後世に継承していかなくてはなりません。決してひとごとではないのです。（高森ひとみ）



- ・初めての音楽ライブと写真パネル展のコラボ！、色々反省や改良点はありますが、たくさんの方に聞いて見て頂いて、大成功の企画でした。今後も継続し、さらに良い物にしていきます。（田平由美）
- ・多くの方に来場していただき嬉しく思いました。今回はバンドの演奏もあり、音楽のもつ素晴らしさを強く感じました。（堀 洋美）

<見学者の方のアンケートを紹介します>



今回の見学者の方には、アンケートもたくさんの記述を頂きました。ここには収まりきれませんが、一部抜粋して掲載します。

- ・日本人として誰もが知らないといけない。見学してかなりのショックを受けた。2度と繰り返してはいけないと強く思った。（千葉県60代男性）
- ・広島原爆二世、広島と同じようにこみ上げて来るものを感じた。風化していくよりは、祈念とかイベント化しても伝えていくべき（鳥取県50代男性）
- ・小学生の私の子供は原爆を知らないので貴重な体験でした。（福岡県40代女性）
- ・戦争の悲劇に対する想像力を持つことこそが、平和を表現する上でとても大切な事だと改めて感じた。教育・文化・メディアなどを通して想像力を養うことのできるような社会にしていきたい。（神奈川県36歳男性）
- ・知ってはいたけど、現実に写真を見ると、改めて平和な今の生活を振り返り、感謝の念でいっぱいになりました。私達は多くの犠牲の上に今の幸せがある事を忘れてはいけない、そう強く感じました。頑張ってください。（宮崎県59歳女性）
- ・原爆のおそろしさを、あらためて思った。原爆でやけた子がかわいそうだった。写真の下に文が書いてあったのでわかりやすかった。（宮崎県12歳男性）
- ・語り継いでいく大切さを感じました。（栃木県15歳男性）
- ・被爆地の広島や長崎で、継続的にこのような活動を後世に伝えて行く事がとても重要だと強く感じました。（東京都23歳女性）
- ・子供に初めて見せました。子供に聞いたところ「戦争はこわい」と言っていました。（福岡県37歳女性）
- ・ここまで大変な事だと思わなかった。写真や文章のすべてに悲しみを実感出来た。（千葉県10代女性）
- ・長崎を離れてみて、原爆が風化していると実感していた。
- ・他県に住んでいても身近に感じていなければ、また、繰り返されると思った。二度とない事を祈る。

音楽ライブとのコラボについても、アンケート回答を多く頂き、以下のように非常に好評でした。

- ・懐かしい歌が聞けてよかった。
- ・斬新でいいと思う。
- ・感動的です。
- ・音楽があると心が休まります。
- ・音楽に聞きってしまいました。色々な形で表現するって大切ですね。
- ・音楽は世界共通だ。平和への願いを世界一緒にとと思う。



青木氏講演にて継承活動の思いを深める・・・

6月22日被災協地下講堂にて、熊本県被爆二世・三世の会会長の青木 栄氏が、「被爆二世として生きる～継承について考える～」をテーマとして、被爆継承についての講演が行われました。

青木氏は、熊本県で高校の教師をされています。父親から託された被爆体験記を基に、戦後の父親の苦労した人生を、授業内容に取り入れられています。

講演ではまず、授業内容を再現し、父親の被爆体験とその後の人生の話を行いました。その後、青木氏の考える被爆継承について話がありました。

青木氏は「今の高校生に、原爆や戦争の現実感を持ってもらうのは、難しいかもしれない、けれど、原爆で苦労した親の人生や、原爆が影響した親と自分の関係については、今の高校生も理解出来る。想像力を持って、相手の人生に語りかける事が大事だ。」と話をしました。

その後、参加者と質疑応答を行い、90分の講演は終了しました。

二世の会・長崎にとって、被爆継承活動の次世代への継承は、大きな課題となっています。青木氏の講演は、一つの指針となり、今後の被爆継承活動の大きな参考となりました。



「山口氏を偲ぶ会」で、二世が大活躍！

9月28日法倫会館リアン（茂里町）にて、7月に御逝去された山口仙二氏を偲ぶ会が行われました。

二世の会・長崎は、被災協、二世の会・諫早と協力して、司会、受付などの運営スタッフとして参加しました。

偲ぶ会には、130名の方が参列し、長崎の全放送局や新聞社の取材も行われました。

山口氏の遺影に献花後、被災協・山田拓民事務局長の挨拶があり、被団協岩佐幹三代表委員や、被災協・谷口稜暉会長、高木義明衆議院議員など、たくさんの方々がお別れのメッセージを捧げられました。

その後、高橋眞司長崎大学客員教授が、山口氏について講演を行いました。

皆さまのメッセージには、語りつくせない程の山口氏との思い出が溢れ、時間が足りない程でした。

二世の会・長崎では、副会長岡本さんと奥様みどりさんの「はむingはーと」が、歌を捧げた後、二世の会・諫早と合同の11名で、山口仙二氏の被爆体験記（一部抜粋）の群読を、披露しました。

練習時間が少ない中、皆、堂々と朗読を行い、参列者の方々より、好評を頂きました。この群読は、今後も何らかの形で続けていきたいと思えます。

その後、山口氏の奥様より、お別れのメッセージと、偲ぶ会への感謝の言葉を頂き、参列者の方々の涙を誘いました。

最後は、被災協・坂本フミエ副会長の挨拶で、会は終了しました。

被爆体験聞取りに参加してきました。

<青年のひろば—学習・交流に参加>

8月8日に、原水協主催「原水爆禁止世界大会2013」の分科会「青年のひろば—学習・交流」に、二世の会として参加してきました。被爆者の方と交流を行い、被爆体験の聞取りをおこないました。

各班7～8名ほどのグループに分かれ行われました。私の班は、被爆者の方の体験談を聞き、リーダーを中心として、それぞれが質問をするという形でした。

被爆者の方のお話も、生々しい悲惨な光景ではなく、投下前後の街の様子などが、主な内容でした。そのため、予想していた暗いイメージよりも、当時の時代背景がよくわかるものでした。

何よりも私が嬉しかったのが、被爆県ではない若い人達が、真剣に原爆のことを考えてくれていたことです。とても頼もしく感じました。

<参加した岡本副会長の感想>

私のグループは、語り部に木戸季市さんを囲み、私以外は皆大学生という、聞き取りの会となりました。遊びたい盛りの若人達が真剣に世界の行く末を考えている！戦争とは確かに、身内に犠牲者が出ると底知れぬ恨みを相手国に抱いて、忘れられない記憶と苦しみに追われてしまう、決して起こしてはならないことですが、どうしたら、戦争が無くなるかというところに焦点を合わせて考えている子達がいるということに、私は、感動しました！

木戸氏の語りについての感想で、ある青年は、木戸氏が「アメリカはRemember、日本はNo, more、この違いは大きい！」と言ったことに対して、平和の基本が全て、集約されているのでは？と感じていると感想を言いました。要するに、やり返すのではなく、どうしたら、無くなるかということへの意識の違いだと思います！また、ある青年女子は、戦争は人災だから、ひとり、ひとりの今の意識から無くなると言ったこと！この言葉は、各（核）先進国の首脳陣に耳たこ状態で聞かせたい言葉でした！相手を是正することにばかり意識をむけると、その反動が永遠に返ってくるようなそんなエンドレス感を感じた聞き取りの会でした！ただ、次世代の若者に、本当の平和感を持った子達がいることが分かって、良かったです。

被団協主催会議に参加！

8月8日に、長崎県建設総合会館で行われた被団協主催の「伝えたいこと、受け継ぐこと～被爆者と二世と市民の交流のつどい」に参加してきました。全国各地から100名を超える方が参加していました。被爆者である大塚さんの被爆体験談、また、お父様の被爆体験を継承されている熊本の青木さんの講演。1万人署名の高校生の活動報告。それぞれの立場での話でした。大塚さんのお話は、実体験に基づいたもので、当時の状況がよく理解できる内容でした。青木さんは、私達と同じ二世の立場でのものです。もっとも、私達が興味があることでもあります。親、もしくは他の被爆者の方の体験を代弁するわけですから、どのような語り方でいいのか・・・、参考になることばかりでした。1万人署名の高校生も、地道な活動で、若いパワーに元気をもらえました。



その後、参加者の方から活発な意見、また、地元での活動などの体験談も出て、予定時間がオーバーしそうになりました。初めて参加しましたが、同じ思いの全国の方々にお会いすることができ、力強く感じました。これからの活動の励みになる集会でした。被爆者の体験談の継承問題は、二世としてこれから最も考えていかなければいけない問題です。この会議に参加して、その思いを強くしました。

原爆症認定訴訟の提訴について

山本寛さんは5歳のとき立山町（爆心地から2・4キロ）で被爆し、2005年に心筋梗塞を発症し、2008年に原爆症認定を申請しましたが、原爆放射線に起因すると認められず、異議申し立ても今年2月に棄却されたため、8月に提訴しました。

山本さんは、「入退院を繰り返しながら5年間、認定を待っていたが認めらなかった。泣き寝入りしている被爆者は多いはず」と言われています。

被災協及び二世の会で、山本さんの提訴の応援に行きました。

被団協主催「全国都道府県代表会議」について

<全国都道府県代表会議について>

10月8日、9日、東京お茶の水で、日本被団協全国代表者会議が開催され、全国から90名、長崎からは「長崎被災協・被爆二世の会・長崎」佐藤会長、「同・二世の会・諫早」森会長、被災協の山田事務局長、森内理事、柿田事務局次長が参加しました。国の償い実現運動について、原爆症認定制度の抜本改正、二世運動について、2015年に向けての取り組みなど論議がおこなわれ、二世からも意見が相次ぎました。

10日は参議院会館で院内集会が行われ、「原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律の改正を求める署名」約20万筆を、自民党、民主党、公明党、共産党、社民党の代表議員に手渡し、激励の挨拶を受けました。そのあと、長崎の代表たちは厚生労働省への要請に参加しました。原爆症認定制度の抜本改正が大詰めを迎えているため、厚労省に回答を求めました。また二世委員会で決めた「二世独自の要請書」を今回から提出し、二世健診、調査など二世の要求を被爆者とともに訴えました。

<被爆二世・被爆者交流会について>

「日本被団協全国都道府県代表者会議」2日目の午後から「被爆二世・被爆者交流会」が開かれ、80名（うち二世20名、被爆者60名）が参加しました。

昨年初めて全国の二世交流会が行われ、今回で2回目です。今回は、一人ずつの自己紹介と各県での活動内容などを発表し、被爆者の皆さんが周りからオブザーバーとして傍聴するという形でした。

今回は、二世を代表して長崎から佐藤会長、東京から田崎豊子さんが、続いて被爆者を代表して長野の藤森俊希さんがそれぞれの思いや活動について発言を行いました。佐藤会長は、まず父池田早苗さんの被爆体験記の朗

読をし、朗読ボランティアや二世の会としての活動内容を話しました。

最後に二世の会としての悩み（財政面・親の会との関係）について述べ、交流会後半の意見交換会での課題とするよう提案しました。



《その他の活動について》

頁の関係で、詳しい記事には出来ませんでした。掲載以外にも以下活動に参加しました。

8月8日 平和の灯

8月10日 吉田敬三氏の写真展「被爆2世の肖像 in NAGASAKI」

8月15日 不戦の集い、全国戦没者追悼式